

このコーナーでは、町にゆかりのある歴史人物とその結び付きなどをシリーズで紹介していきます。執筆者は町史編さん委員の佐藤仁志さん（豊間根・六九）です。

浦野立三は、蝦夷地函館において伝道しての酒乱により土佐藩を脱藩、流浪の旅を重ねて函館に行き、神

の酒乱により土佐藩を脱藩、流浪の旅を重ねて函館に行き、神

て、生涯をキリスト教の伝道に捧げる決意をし、江戸を脱出、蝦夷地に渡るが、途中閉伊郡金浜村の松原卯之吉宅に一週間ほど留まり旅の疲れを癒やした。沢辺数馬（啄磨）は高知生まれ、父の弟の息子が坂本龍馬である。幕末の江戸の剣豪桃井春蔵の道場で剣を学んでいたが、同門の友人

村の松原宅に潜伏、この間、隠密裡に宮古、山田地方においてキリスト教を伝道したといわれる。その後、酒井、沢辺、浦野らは東京に出、潜伏しながら布教活動を行った。この頃、ニコライ師より洗礼を受けた仙台藩士片倉源十郎は海路帰仙の途中、山田沖で時化に遭い山田湾に寄港、滞在中隠密に伝道活動したといわれる。

明治初年、江戸から阿部和作が帰郷。明治六年キリスト教禁制は撤廃され、和作塾に多くの若者が集まった。和作は数字、新思想を教授、そしてキリスト教の伝道に努めた。その頃、

キリスト教の伝道者

浦野・沢辺・片倉・阿部

明社の沢辺宮司（旧姓山本）の婿養子となった。

沢辺は医師浦野立三、医師酒井篤礼（伊達藩）らと共に領事館を訪ねた。

ニコライ師は求道精神に燃える三人の強い願いをいれ、秘密裡に日本人最初の洗礼を施した。慶応四年四月のことである。

戊辰戦争中は函館を離れ、酒井は仙台上に潜伏、浦野と沢辺は閉伊郡金浜

浦野と沢辺は閉伊郡金浜

浦野立三は金浜に帰り塾を開き、浦野医院を開業した。

阿部和作の尽力により、明治十一年三月ハリストス正教会が設立され、同十二年十一月飯岡に教会が建てられ、初代の伝教者はステファン榎山である。

明治二十三年頃、岩手地方の司祭を務めた盛岡正教会のイオアン片倉は、同年十月授洗者として来町した。片倉は、明治初年時化に遭遇、一時山田に滞在した人物片倉源十郎である。

明治初年、江戸から阿部和作が帰郷。明治六年キリスト教禁制は撤廃され、和作塾に多くの若者が集まった。和作は数字、新思想を教授、そしてキリスト教の伝道に努めた。その頃、

今年春の訪れは例年よりも早かったようです。町内の桜は、四月十八日の消防演習のころにはどこも満開で、花見を楽しんだ方も多かったのではないでしょう。船越家族旅行村の桜も植樹から何年たったのか、今や花見の名所に数えてもよいほどに見事に成長しました。機会を逸した方は来年を楽しみにしてください。

四月に入って朝のウォーキングを始めました。五時すぎ、織笠河口の上空には三羽のミサゴが飛来して餌となる魚を探しています。時には、ボラと思われる魚を文字通り驚つかみにして巣に帰っていく姿を見ることができず。駅前古川橋と山田道路高架橋の下に例年営巣している燕の姿が、二十日を過ぎても見えません。去年、カラスに襲われていたよつななので、そのせいで場所を変えたのかもかもしれません。心配です。

季節の移ろいを楽しみながら今日も歩いていきます。

山田町長 沼崎喜一



明治29年6月までのハリストス正教
山田福音正教会(山田町史中巻から)